



—都立高校での選挙啓発の取り組み—

560名の都立高校生が

東京都知事選挙の「模擬投票」を体験！

事前のお知らせ

と き 2月6日(木) 午後3時～4時

ところ 都立井草高校内 (上石神井2-2-43)

練馬区選挙管理委員会(以下、区選管)は、6日、都立井草高校(校長:宮本 信之)の1・2年生 560名を対象に、東京都知事選挙の「模擬投票」を実施する。

若者の選挙離れが進み、投票率アップが全国的な課題となる中、数年後には選挙権を得る高校生たちに、投票を体験してもらい、主権者意識を高めてもらうのが狙い。

井草高校ではこの模擬投票に向けて、新聞記事の解説や、実際の都知事選の選挙公報を使った授業を行い、参加を促してきた。当日は、自分たちの住む



模擬投票の様子(イメージ)

東京の代表を決める選挙に、高校生たちが真剣に一票を投じる。

【模擬投票の実施にいたる経緯】

区選管では、若年層を対象とした啓発活動を積極的に行ってきた。都立井草高校での模擬投票は、今回で3回目。24年12月、選挙時に投票所となっている都立井草高校に提案したのがきっかけ。

平成25年7月には参議院議員選挙(東京都選出と比例代表選出)の模擬投票を実施。その模擬投票を体験した3年生の生徒から「是非、後輩たちにも経験させてほしい」という強い要望もあり、今回の選挙で、1・2年生を対象に実施することとなった。

都立井草高校の政治経済の授業では、今回の模擬投票で候補者を「選ぶ」ために、授業の中で新聞や政見放送、ニュースなど生の教材を取り上げ、生徒に解説してきた。昨年、模擬投票を体験した3年生の政治経済を担当した教諭は、模擬投票に向けた授業をするようになって「昼休みに選挙公報を見ながら生徒らが議論する姿を初めて見た」という。

区選管担当者は「以前、街の若者に『選挙に行かないの?』と聞いたところ『どうやって選ぶのかわからない』と言われてしまった。有権者として一票を投じることの重要性を訴えるのはもちろんだが、若年層に対して『候補者を選ぶこと』を、しっかりと伝えていくことが投票率向上のカギであると思う。」と話している。

【主権者教育・選挙啓発に有効な模擬投票】

日本国内では「模擬投票」はあまり普及していないが、外国では非常にポピュラーなものとして実施されており、主権者教育における教育的効果は高いと言われている。日本でも明治学院大学川上和久教授などが模擬投票を推奨しており、国内では神奈川県が高校生の模擬投票を実施している。

【模擬投票のイメージ】

投票箱や記載台などの備品をはじめ、選挙公報も本物を用意。選管の担当者は、より実際の状況に近づけるため、各有権者に送られる「選挙のお知らせ」も実際と同じフォームで生徒一人ひとりに作っている。高校生たちはあらかじめインターネットや紙媒体で選挙公報を確認し、実際の立候補者たちの公約を見極めた上で投票する。なお投票結果は、公職選挙法第138条の3一人気投票の公表禁止一に抵触するため、実際の投票が終わってから学校内での公表に留める。

【問い合わせ】選挙管理委員会事務局情報啓発係 電話:03-5984-1019